



# 受けた恩を地元で返す

ウクライナ避難民  
支援を続ける

別當紀人さん



着用しているTシャツは「Nadiya」オリジナルのデザイン

西東京市や小平市でウクライナ避難民運営食堂「Nadiya」を経営する。ウクライナ避難民に仕事を提供し、彼らの収入源を確保するのが狙い。当初は定職に就きながら事業を興したが、半端では続かない」と好きだった旅行業を離れ、避難民支援に完全に軸足を移した。内情を明かせば、食堂の経営は赤字状態。それでも彼らの仕事を作り

さらにワーキング・ホリデー制度を利用してドイツにも滞在。ポルビアやカンボジアで、日本人観光客を現地で迎える仕事にも就いた。多くの国・地域をたいがいは一人で巡ってきたが、実は語学が堪能なわけではない。ただ、旅を繰り返しているうちに、「通じない」ことへの恐れがなくなった。「どんな場所にも、優しい人って必ずいるんです。声を掛け続けていって、あとはジャストチャーや紙を示すなどの助けをもらえます」と、今思うと、「よく対処してもらえた」ということも少なくない。スイスではヒッチハイクで子

「結局は、国も地域も関係なくて、目の前のそちらがいた。」

「別に僕個人はウクライナに肩入れしているわけではないんです。ただ、目の前に困っている人がいるから助けたいというだけ。僕自身が多くの国で受けてきた厚意や恩を、自分の町で返しているからと思っています。」

◆ベトナム・のりひと

1978年、旧保谷市生まれ。西東京市在住。同市議会支援活動の報告をしたほか、小学校や公民館、大学などで講演活動も行っている。